

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間		令和7年8月1日	～ 令和7年9月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間		令和7年9月12日	～ 令和7年9月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間		令和7年8月27日	～ 令和7年9月16日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	15	(回答数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年9月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職としての責務の自覚 学校教育の現場で10年以上にわたり、支援を必要とする子どもたちの担任として経験を積んだ職員が、訪問支援員として支援に当たっている。個に応じた専門的な支援を提供することができる。また、研修の充実やスーパーバイズにより、訪問支援員の質の向上を図っている。	訪問支援員の現場での困り感やさらに学びたいテーマなどについて、気軽に話題にできる雰囲気づくりを大切にし、日常の気軽なミーティングと定期的なミーティングを組み合わせ、訪問支援員の意思疎通に役立てている。 P D C Aサイクルによる見直し。	他の保育所等訪問事業者とも連携し、同じ立場から学び合いを深めていきたい。定期連絡会の年間計画を把握し、できるだけ参加を心がける。
2	直接支援・間接支援体制 訪問施設、保護者、訪問員、相談員など、関係者が連携し、情報共有、報告連絡相談が適宜実施できるよう調整を行い、本人支援、家族支援、訪問先支援の充実を図っている。	各関係者からの助言や情報が得られ、訪問支援員だけで抱え込まずに、相談できる体制がある。普段から関係者との交流を図り、信頼関係を構築することを意識している。	訪問先施設と、さらなる良好な関係づくりを目指す。日頃から相談しやすいような関係性や雰囲気をつくっていくことが必要である。挨拶、社会的なマナー、好印象を与える努力で、意思疎通を容易にする。

3	就学を控えた児童の保護者に対して、就学相談を行い、移行先への情報の提供や情報共有を行っている。	保護者の就学に対する悩みの相談に応じ、気軽に話し合える関係づくりを心がけている。	ご家族のニーズに応じた相談援助 課題解決に向けたアプローチ、不安軽減、本人の集団生活への適応、支援の方向性の共通理解、将来への展望等 必要に応じて相談できる体制
---	---	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先の訪問支援に対する理解へのアプローチ	訪問先の全職員への周知がなされていない。関係する職員のみではなく、全体体制として訪問支援への理解度を上げていきたい。	管理者や主任の役割の方たちに協力をいただき、周知のための場の設定などを依頼していきたい。また、その果たす役割や効果について実感してもらえるよう、より良い支援の工夫改善を行うようにする。
2	訪問先とのスケジュール調整	訪問先施設の年間行事計画やスケジュールに合わせて訪問計画を立てるが、臨時の行事や予定が組み込まれたり、時間割変更が行われたりすることがあり、急な変更を余儀なくされることがある。直前での変更をどのようにキャッチするかが課題である。	メールやラインなどをもっと活用できる方向で調整したい。
3	職員、人材の確保	退職者が出了場合の人材の確保が難しい。ハローワークによる募集や、口コミ等を通じた募集を呼びかけている。	スマートフォンなどのアプリや動画等を利用した募集にも力を入れていきたい。